

社会福祉基礎

1. 講座名	社会福祉基礎
2. 分類	総合選択科目 福祉系列
3. 単位数	2単位
4. スクーリング	総回数：8 必要出席回数：6 スクーリング代替課題：3
5. レポート	総回数：4 必要合格回数：4
6. 目標	[知識・技能] 社会福祉の基本理念や制度の概要を理解し、福祉の役割について説明できる。 [思考力・判断力・表現力] 福祉制度の課題を考察し、現代社会における福祉の重要性を論理的に考えられる。また、福祉に関する資料を活用し、意見や考えを的確に表現できる。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] 社会福祉への関心を深め、主体的に学び、福祉の向上に貢献する姿勢を育む。
7. 活動内容	こんにちの日本は、少子化・高齢化の進行や経済状況の変化、地域の人間関係の希薄化などにもなっており、介護や子育てをめぐる問題、生活困窮や貧困の問題、地域における孤立の問題など、さまざまな生活問題を抱える人や家族が増えています。そのような状況のなかで、社会福祉の制度やサービス、専門職や地域住民による支援活動などが一層求められており、その役割がますます重要になっています。みなさんも、「社会福祉基礎」を学んで、これからの社会のあり方と、その中での私たちの幸せのかたちを一緒に考えていきましょう。
8. 評価方法	5段階評定 観点別評価 ①知識・技能 ・レポート(70%)とテスト(30%) 高齢者福祉に関する知識 ②思考・判断・表現 ・レポート(30%)とテスト(70%) 高齢者福祉に対する関心・考えなど ③主体的に学習に取り組む態度 ・レポート、スクーリングにおける学習意欲や授業態度(100%)
9. 教材	社会福祉基礎(実教出版)

スクーリング計画	
第 1 回 第 2 回	レポート① オリエンテーション 第1編 社会福祉の理念と意義
第 3 回 第 4 回	レポート② 第2編 社会福祉の歴史と次代の展望
第 5 回 第 6 回	レポート③ 第3編 生活を支える社会福祉・社会保障制度
第 7 回 第 8 回	レポート④ 第4編 人間関係とコミュニケーション

高齢者福祉

1. 講座名	高齢者福祉
2. 分類	総合選択科目 福祉系列
3. 単位数	2単位
4. スクーリング	総回数：8 必要出席回数：6 スクーリング代替課題：3
5. レポート	総回数：4 必要合格回数：4
6. 目標	[知識・技能] 高齢者を取り巻く環境を理解し、高齢者を支える福祉サービス・制度の基礎的な知識を身につけることができる。 [思考力・判断力・表現力] 高齢者が生活上で直面する困難の解決と福祉サービス・制度（社会資源）を結び付けて考え、高齢者がいきいきと暮らすことのできる社会について、言語化して表現することができる。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] 高齢者福祉を他人事ではなく、自分自身にも関わりのある事として考えることができる。
7. 活動内容	・超高齢社会の背景、高齢者の生活環境、対象理解、サービス・制度、コミュニケーションについて、個人ワークやビデオ視聴、講義を通して学ぶ。
8. 評価方法	5段階評定 観点別評価 ①知識・技能 ・レポート(70%)とテスト(30%) 高齢者福祉に関する知識 ②思考・判断・表現 ・レポート(30%)とテスト(70%) 高齢者福祉に対する関心・考えなど ③主体的に学習に取り組む態度 ・レポート、スクーリングにおける学習意欲や授業態度(100%)
9. 教材	社会福祉基礎(実教出版)

スクーリング計画	
第 1 回 第 2 回	レポート① オリエンテーション 社会福祉の理念、高齢化社会の特徴
第 3 回 第 4 回	レポート② 高齢者の生きがいと健康づくり 介護保険制度
第 5 回 第 6 回	レポート③ 介護保険サービス 高齢者を支援する機関
第 7 回 第 8 回	レポート④ 高齢者を支援する専門職、コミュニケーションの基礎 まとめ

人間関係トレーニング

1. 講座名	人間関係トレーニング
2. 分類	総合選択科目 福祉系列
3. 単位数	2単位
4. スクーリング	総回数：8 必要出席回数：6 スクーリング代替課題：3
5. レポート	総回数：4 必要合格回数：4
6. 目標	[知識・技能] ・他の人と関わり、その上で自分を知ることができる。 ・色々な人と関わりを持つことで、自分の考えや相手の考えを知ることが出来る。 [思考力・判断力・表現力] ・コミュニケーションを通して自分がどんな感情を持つかを考えてみる。それに伴い相手がどう思うかも考えることができる。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] ・これらを元にフリーで会話をすることができる。
7. 活動内容	・人間関係を築くために必要な考え方、話し方などを学ぶ。様々なシチュエーションについて活かせる知識を身に着けるためにペアワークやグループワークを行う。
8. 評価方法	5段階評定 観点別評価 ①知識・技能 ・レポート(70%)とテスト(30%) - 人間関係トレーニングに関する知識(自己理解・他者理解) ②思考・判断・表現 ・レポート(30%)とテスト(70%) - 人間関係トレーニングに関して、シチュエーションや自分理解について将来の自分について考える。 ③主体的に学習に取り組む態度 - レポート、スクーリングにおける学習意欲や授業態度(100%)
9. 教材	プリント教材

スクーリング計画		レポート
第1回 第2回	本講座の目的、内容、評価方法、スクーリングやレポートについての説明 【人間関係ってなんだろう？】 ・他者との関係性。自己理解。	レポート①
第3回 第4回	【自分と他者を知ろう】 ・人はどんな事を考えているのか。 ・自分とどう違うのか。	レポート②
第5回 第6回	【コミュニケーションとは？】 ・悩み相談にチャレンジしてみよう。 ・会話の続け方。	レポート③
第7回 第8回	【まとめ（復習）】 ・グループを作って会話をする。 ・何を感じたかを考える。	レポート④

保育基礎

1. 講座名	保育基礎
2. 分類	総合選択科目 福祉系列
3. 単位数	2単位
4. スクーリング	総回数：8 必要出席回数：6 スクーリング代替課題：3
5. レポート	総回数：4 必要合格回数：4
6. 目標	この科目は、保育の意義や方法、子どもの発達と生活の特徴、子どもの福祉や文化について理解し、関連する技術を身に付けるとともに、子ども一人一人の発達に適した保育環境を整えることの重要性について思考を深め、地域の保育や子育て支援に寄与できる資質・能力を育成することをねらいとする。また、新しい保育所保育指針などに対応するとともに、幼児教育・保育に従事する職業人としての意識を高めることができるよう、子どもの発達過程や生活の特徴を保育に関連付けて体系的に学ぶことにより、子どもの姿全体を捉えられる内容である。また、子どもの遊びや表現活動に関する内容を自身の経験も踏まえて取り入れ、子どもと触れ合う具体的方法を学ぶことで、より実践的な学習活動ができる。 [知識・技能] ・保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにすることができる。 [思考力・判断力・表現力] ・子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養うことができる。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] 子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができる。
7. 活動内容	(1) 子どもの保育 保育の意義、保育の方法、保育の環境 (2) 子どもの発達 子どもの発達の特性、乳児期の発達、幼児期の発達 (3) 子どもの生活と養護 乳幼児期の生活の特徴と養護、生活習慣の形成、健康管理と事故防止 (4) 子どもの福祉 児童観の変遷、児童福祉の理念と関係法規・制度、子どもの福祉を支える場 (5) 子どもの文化 子どもの文化の意義、子どもの遊びと表現活動、子どもの文化を支える場
8. 評価方法	5段階評価 観点別評価 ①知識・技能 ・レポートとテスト

	②思考・判断・表現 ・レポートとテスト ③主体的に学習に取り組む態度 ・レポート提出時期とスクーリング出席回数
9. 教材	教科書など: 保育基礎 (実教出版)

スクーリング計画	
第 1 回	レポート① 子どもの保育
第 2 回	レポート① 子どもの保育
第 3 回	レポート②子どもの発達
第 4 回	レポート②子どもの発達
第 5 回	レポート③子どもの生活 ※実習 絵本作り、折り紙・指遊び、子どものおやつの研究
第 6 回	レポート③子どもの生活
第 7 回	レポート④子どもの文化
第 8 回	レポート④子どもの福祉

地球市民入門 α

1. 講座名	地球市民入門 α
2. 分類	総合選択科目 多文化共生系列
3. 単位数	2単位
4. スクーリング	総回数：8 必要出席回数：6 スクーリング代替課題：3
5. レポート	総回数：4 必要合格回数：4
6. 目標	[知識・技能] ジェンダー、人権、戦争といった国際的な問題について、基礎的な内容を聞いたり読んだりして理解することができる。 [思考力・判断力・表現力] 得た知識について自分なりの意見を形成し、他者に向けて発信することができる。また、他者の意見を聞いて判断したり、それをもとに自分の考えを修正したりすることができる。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] 授業で見たり聞いたりしたトピックについて、自分の関心に沿ってさらに探究し、調べたことや解決に向けて他者と話し合ったことなどをエッセイなどで表現することができる。
7. 活動内容	「地球市民」とは、個人や一国だけの取り組みでは解決できない課題（Global Issues）に取り組む人々のことである。その第一歩として、身の回りのことが実は地球規模の出来事や社会の課題とつながっていることに気付くような活動を行う。例えば、身近なテレビアニメ・You Tube 番組などを取り上げ、ジェンダーや戦争と平和、生き辛さといった視点から個人やグループで分析を行う。また、校外学習として、大阪城周辺の戦跡を訪れる。
8. 評価方法	5段階評価 観点別評価 ①知識・技能 レポート30%、テスト70% ②思考・判断・表現 レポート70%と実技テスト30% ③主体的に学習に取り組む態度 スクーリング出席回数100%
9. 教材	スクーリングで配布されたプリント、テレビアニメ、ディズニー映画、You-Tube など。

スクーリング回数	授業内容	レポート
第 1・2 回	アニメから考えるジェンダー	レポート①
第 3・4 回	大阪城戦争痕跡探索ツアー(雨天:ピース大阪)	レポート②
第 5・6 回	YMCA とアイデンティティ(どうして自分は自分なのか?)	レポート③
第 7・8 回	J-popの歴史と「生き辛さ」の変容	レポート④

地球市民入門 b

1. 講座名	地球市民入門 b
2. 分類	総合選択科目 多文化共生系列
3. 単位数	2単位
4. スクーリング	総回数: 8 必要出席回数: 6 スクーリング代替課題: 3
5. レポート	総回数: 4 必要合格回数: 4
6. 目標	[知識・技能] ジェンダー、人権、戦争、貧困といった国際的な問題について、基礎的な内容を聞いたり読んだりして理解することができる。 [思考力・判断力・表現力] 得た知識について自分なりの意見を形成し、他者に向けて発信することができる。また、他者の意見を聞いて判断したり、それをもとに自分の考えを修正したりすることができる。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] 授業で見たり聞いたりしたトピックについて、自分の関心に沿ってさらに探究し、調べたことや解決に向けて他者と話し合ったことなどをエッセイなどで表現することができる。また、社会課題を解決するための実際の取り組みにも関わっていく。
7. 活動内容	・人種差別/戦争/国際理解/フェアトレード(公正な貿易)などをキーワードに、DVD・You Tube 視聴、ゲストスピーカーの話などを通して、楽しく考察を深めていく。 ・例えば、映画『ゴジラ』の一部視聴を通して、原爆や水爆がどのように戦後日本で捉えられてきたかを分析したり、環境問題に取り組む活動家を招いて話を聞いたり討論をしたりする。 ・フェアトレードの一環として、東ティモール産のコーヒー豆販売について学んだり実際に参加したりする。
8. 評価方法	5段階評価 観点別評価 ①知識・技能 レポート 30%、テスト 70% ②思考・判断・表現 レポート 70%と実技テスト 30% ③主体的に学習に取り組む態度 スクーリング出席回数 100%
9. 教材	スクーリングで配布されたプリント、映画『ゴジラ』など

スクーリング回数	授業内容	レポート
第 1・2 回	怪獣映画のメッセージ	レポート①
第 3・4 回	ホラー映画から人権を考える	レポート②
第 5・6 回	ゲストスピーカー	レポート③
第 7・8 回	地球の歩き方/フェアトレードって何？	レポート④

私のアイデンティティ

1. 講座名	私のアイデンティティb
2. 分類	総合選択科目多文化共生系列
3. 単位数	2 単位
4. スクーリング	総回数:8 必要出席回数:6 スクーリング代替課題:3
5. レポート	総回数:4 必要合格回数:4
6. 目標	[知識・技能] 自分の感情・五感・思考について理解を深めることができる。 [思考力・判断力・表現力] 自己覚知できたことを表現することができる。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] 動物との触れ合いを通して、自然に湧き上がる感情や思考がエンパワーメントされ、学ぶ楽しさを体感することができる。
7. 活動内容	・アニマルセラピーを中心に行っている専門学校と共に授業をもつ。 ・専門学校で飼育されている動物達との実際に触れ合い体験を通して、新しい自分との出会いを創っていく。 ・具体的には、動物の生態や飼育方法の講義を受けたり、触れない動物に関しては飼育方法を見学したりする。
8. 評価方法	5段階評価 観点別評価 ①知識・技能 ・レポート 30%、テスト 70% ②思考・判断・表現 ・レポート 70%、テスト 30% ③主体的に学習に取り組む態度 ・レポートの「振り返り」部分 50%、スクーリング出席 50%
9. 教材	自主教材

スクーリング計画	
第 1 回	オリエンテーション:授業の概要説明、レポート確認
第 2 回	アニマルセラピーについての講義
第 3 回	動物とのふれあい体験①
第 4 回	動物とのふれあい体験②
第 5 回	動物とのふれあい体験③
第 6 回	動物とのふれあい体験④
第 7 回	ふれあい体験を通して表現してみよう
第 8 回	新しい自分との出会いについて まとめ

多文化共生考

1. 講座名	多文化共生考 α
2. 分類	総合選択科目 多文化共生系列
3. 単位数	2単位
4. スクーリング	総回数： 8 必要出席回数： 6 スクーリング代替課題：3
5. レポート	総回数： 4 必要合格回数： 4
6. 目標	[知識・技能] 文化や言語が異なる人と気持ちよく接するためのマナーや、自己開示や傾聴、異なる意見を言うときのスキルについて学ぶことができる。 [思考力・判断力・表現力] ・異文化理解を深めることで視野を広げ、自分の価値観や考え方を相対化し、テーマについて多角的に思索することができる。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] ・テーマについて批判的に考え、問題解決や課題達成のために、公正な姿勢で他者と協働することができる。
7. 活動内容	・外国にルーツを持つ生徒や留学生と、身の回りのことや社会的テーマなどについて対話を行う。 ・留学生に日本に対する思いや将来の夢などについてインタビューを行い、その対話やインタビューを振り返り、気づいたこと、感じたことなどをグループで共有することを通して、異なる価値観や考え方を認識し、一方で自分の価値観や考え方を客観的に捉える。 ・テーマについての話し合いでは、グループで最終的に結論を出すよう協働する。
8. 評価方法	5段階評価 観点別評価 ① 知識・技能 ・レポート 30%、テスト 70% ② 思考・判断・表現 ・レポート 70%、テスト 30% ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・レポート提出時期 50%、スクーリング出席回数 50%
9. 教材	スクーリングで配布されたプリント

スクーリング回数	授業内容	レポート
第 1・2 回	自己紹介(私の大切なもの)・ダイヤモンドランキング	レポート①
第 3・4 回	留学生との交流①(好きなものについて話そう!)	レポート②
第 5・6 回	留学生との交流②(インタビュー「〇〇さんと日本」・発表)	レポート③
第 7・8 回	テーマ「女性専用車両は必要か／いじめはなぜ起こるか／素敵な恋愛をするために必要な力とは?」について話そう	レポート④

ジェンダー入門

1. 講座名	ジェンダー入門
2. 分類	総合選択科目 多文化共生系列
3. 単位数	2単位
4. スクーリング	総回数: 8 必要出席回数: 8 スクーリング代替課題: 4
5. レポート	総回数: 4 必要合格回数: 4
6. 目標	[知識・技能] ・ジェンダーに関することは、例えば性自認や性指向、デート DV などの性暴力の種類を表す言葉などを理解できる。 [思考力・判断力・表現力] ・自身や社会に蔓延する性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に気づき、それらから解放された生きやすさ感覚を獲得することができる。 ・誰もが暴力の被害者にも加害者にもなることなく、安心安全に生きる権利を有していることを確信することができる。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] ・一人一人の自己肯定感を高めることができる。
7. 活動内容	・ジェンダーという言葉の切り口に、結婚や子育てなどのライフスタイルの選択、職業選択、デートDV、LGBTQ など身近なテーマについて考えるための具体的な情報提供を行う。定まった回答があるテーマではないことを十分に理解し、現状をもとに自らが考えること、さらに、卒業後もジェンダー視点で物事を捉え続けることの大切さを伝える。 ・授業は、自分の気持ちや考えをワークシート及びポストイットに記入する形式を多く取り入れる。個人のプライバシーに配慮したうえで、それらをクラスメンバーで共有する。
8. 評価方法	5段階評価 観点別評価 ① 知識・技能 レポート 30%、テスト 70%) ② 思考・判断・表現 レポート 70%、テスト 30% ③ 主体的に学習に取り組む態度 レポート提出時期 50%、スクーリング出席回数 50%
9. 教材	スクーリングで配布されたプリント

スクーリング 回数	授業内容	レポート
第 1・2 回	男らしさ、女らしさって何?: 固定的な性別役割分業観を見直す	レポート①
第 3・4 回	デートDVについて	レポート②
第 5・6 回	LGBTQ: 多様な性、生き方について	レポート③
第 7・8 回	私もあなたも大切にするコミュニケーション術	レポート④

レクリエーション

1. 講座名	レクリエーションb
2. 分類	総合選択科目 ウエルネス系列
3. 単位数	2単位
4. スクーリング	総回数：8 必要出席回数：6 スクーリング代替課題：3
5. レポート	総回数：4 必要合格回数：4
6. 目標	[知識・技能] ・危機回避の際の行動及び事故発生時の応急手当ができる。 [思考力・判断力・表現力] ・他者と学び合う場面で、基本的な技の見本や改善のポイントを身体及び言葉などで他者に表現できる。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] ・体力や技能の程度、性別や目的、障害の有無など様々な違いを超えて、スポーツを楽しむために調整し合意したマナーを実践できる。
7. 活動内容	○生涯にわたって行えるスポーツを実践し、他者と協力しながら行っていく。 ・ドッチビー ・ウォーキングサッカー ・フライングディスクなど
8. 評価方法	5段階評価 観点別評価 ①知識・技能 ・レポート(70%)とテスト(30%) ※自分の意見を、自分の言葉を使い、明確に伝えられているかを評価する。 ②思考・判断・表現 ・レポート(30%)とテスト(70%) ※対面コミュニケーションへの関心、取り組み方を評価する。 ③主体的に学習に取り組む態度 レポート、スクーリングにおける学習意欲や授業態度(100%)を評価する。
9. 教材	自由教材(予定)

スクーリング計画	
第1回	レポート・アイスブレイク
第2回 ～ 第7回	いろいろなスポーツを行う
第8回	レポート・振り返り

ニュースポーツ I

1. 講座名	ニュースポーツ I α
2. 分類	総合選択科目 ウェルネス系列
3. 単位数	2単位
4. スクーリング	総回数：8 必要出席回数：6 スクーリング代替課題：3
5. レポート	総回数：4 必要合格回数：4
6. 目標	[知識・技能] ・危機回避の際の行動及び事故発生時の応急手当ができる。 [思考力・判断力・表現力] ・他者と学び合う場面で、基本的な技の見本や改善のポイントを身体及び言葉などで他者に表現できる。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] ・体力や技能の程度、性別や目的、障害の有無など様々な違いを超えて、スポーツを楽しむために調整し合意したマナーを実践できる。
7. 活動内容	・第1回：レポート、アイスブレイクを行い、各自のスポーツ種目への意識等を確認し、興味・関心を深める 最近、流行っているスポーツや新しく考案されたスポーツを学びます。
8. 評価方法	5段階評価 観点別評価 ①知識・技能 ・レポートとテスト ②思考・判断・表現 ・レポートとテスト ③主体的に学習に取り組む態度 ・レポート提出時期とスクーリング出席回数
9. 教材	自由教材

スクーリング計画	
第1回	レポート・アイスブレイク
第2回 ～ 第7回	さまざまなスポーツを実践します。 (ボッチャなど)
第8回	レポート・振り返り

スポーツ I

1. 講座名	スポーツ I α
2. 分類	総合選択科目 ウェルネス系列
3. 単位数	2単位
4. スクーリング	総回数： 8 必要出席回数： 6 スクーリング代替課題： 3
5. レポート	総回数： 4 必要合格回数： 4
6. 目標	[知識・技能] ・危機回避の際の行動及び事故発生時の応急手当ができる。 [思考力・判断力・表現力] ・他者と学び合う場面で、基本的な技の見本や改善のポイントを身体及び言葉などで他者に表現できる。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] ・体力や技能の程度、性別や目的、障害の有無など様々な違いを超えて、スポーツを楽しむために調整し合意したマナーを実践できる。
7. 活動内容	・第1回：レポート、アイスブレイクを行い、各自のスポーツ種目への意識等を確認し、興味・関心を深める 陸上競技やマット運動などの採点競技や測定競技を行う。
8. 評価方法	5段階評価 観点別評価 ①知識・技能 ・レポートとテスト ②思考・判断・表現 ・レポートとテスト ③主体的に学習に取り組む態度 ・レポート提出時期とスクーリング出席回数
9. 教材	自由教材

スクーリング計画	
第 1 回	レポート・アイスブレイク
第 2 回	走り高跳び (はさみ跳び、ベリーロール、背面跳び)
第 3 回	
第 4 回	
第 5 回	砲丸投げ
第 6 回	
第 7 回	
第 8 回	マット運動・跳び箱
	レポート・振り返り

スポーツⅡ

1. 講座名	スポーツⅡα
2. 分類	総合選択科目 ウエルネス系列
3. 単位数	2単位
4. スクーリング	総回数:20 必要出席回数: 6 スクーリング代替課題: 3
5. レポート	総回数:4 必要合格回数: 4
6. 目標	[知識・技能] ・危機回避の際の行動及び事故発生時の応急手当ができる。 [思考力・判断力・表現力] ・他者と学び合う場面で、基本的な技の見本や改善のポイントを身体及び言葉などで他者に表現できる。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] ・体力や技能の程度、性別や目的、障害の有無など様々な違いを超えて、スポーツを楽しむために調整し合意したマナーを実践できる。
7. 活動内容	第1回:レポート、アイスブレイクを行い、各自のスポーツ種目への意識等を確認し、興味・関心を深める 第2回:<u>ネット型種目 バレーボール</u> バレーボールを行い、チームで協力して物事に取り組む力を身につける 第3回:<u>ネット型種目 バレーボール</u> 様々な戦略や工夫を講じて、勝利に向けての戦略を立てれるようになる 第4回:<u>ネット型種目 バドミントン</u> バドミントンの特性を理解し、シングルス・ダブルスでの違いを考える 第5回:<u>ネット型種目 卓球</u> 卓球の特性を理解し、道具を用いた種目の戦略を考える 第6回:<u>ゴール型種目 バスケットボール</u> ドリブルなどの基礎動作から、対人プレイ・パス等の戦術を考える 第7回:<u>ゴール型種目 フットサル</u> 足を使いボールをコントロールするスキルを身につけ、相手の裏を突くプレイを考え、実践してみる 第8回・9回:<u>ターゲット型種目 グラウンドゴルフ</u> 普段行うことのない種目を体験し、種目の特性を理解しながら戦略を考えたり、コミュニケーションを図る 第10回:レポート、振り返りを実施。 各自が得た経験や知識等を共有し、各種目の有り方等を考える時間を持つ

8. 評価方法	5段階評価
	観点別評価 ①知識・技能 レポート・スクーリング及びテスト ②思考・判断・表現 レポート・スクーリング及びテスト ③主体的に学習に取り組む態度 レポート・スクーリング及びテスト
9. 教材	自由教材

スクーリング計画	
第1回 ①②(座学)	レポート・アイスブレイク
第2回 ③④(実技)	ネット型種目(バレーボール) ☐ 個人のスキル向上を目的として、パスの精度向上を目指す
第3回 ⑤⑥(実技)	ネット型種目(バレーボール) ☐ ゲームを通じて、チームワークの形成、協調性の育成を目指す
第4回 ⑦⑧(実技)	ネット型種目(バドミントン) ☐ シャトルの打ち分けや相手を欺き、ポイントを取るための戦術を学ぶ
第5回 ⑨⑩(実技)	ネット型種目(卓球) ☐ 打ち方やルールなどを試合を通じて学びを深める
第6回 ⑪⑫(実技)	ゴール型種目(バスケットボール) ☐ ドリブルやパスワークなどの個人スキルや、チームでのコミュニケーションからお互いをカバーしあうなどの動きを身につける事を目標とする
第7回 ⑬⑭(実技)	ゴール型種目(フットサル) ☐ ドリブルなどの個人スキルを身につけ、ゲーム内で個々が役割等を理解しながら、勝敗が競いあえるようになることを目標とする
第8回 ⑮⑯(実技)	球技型種目(グラウンドゴルフ) 種目に関する基本的な知識の習得と道具の使い方について学ぶ
第9回 ⑰⑱(実技)	球技型種目(グラウンドゴルフ) 打球のコントロールを行い、思ったところに打ち、他者と勝敗を競い合うことを目標とする
第8回 ⑲⑳(座学)	レポート・振り返り 実技での経験を振り返り、各種目での実施上や指導を行う上での注意点などを考え、意見などを共有する時間を持つ

ウェルネス概論

1. 講座名	ウェルネス概論 α
2. 分類	総合選択科目 ウェルネス系列
3. 単位数	1 単位
4. スクーリング	総回数： 8 必要出席回数： 6 スクーリング代替課題： 3
5. レポート	総回数： 4 必要合格回数： 4
6. 目標	[知識・技能] ・他者と学び合う場面で、基本的な技の見本や改善のポイントを身体及び言葉などで他者に表現できるようになる ・スポーツをとりまく環境を学ぶ [思考力・判断力・表現力] ・トレーニングや運動するときに、自分の身体で起こっていることを学び、知識が定着できるようになる。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] ・トレーニングするときに、どこに効いているのかを意識して主体的に学ぶ。
7. 活動内容	・レポート ・いろいろなトレーニングを、効果を考え、実践できるようになる。
8. 評価方法	5段階評定 観点別評価 ①知識・技能 ・レポートとテスト ②思考・判断・表現 ・レポートとテスト ③主体的に学習に取り組む態度 ・レポート提出時期とスクーリング出席回数,
9. 教材	自由教材

スクーリング計画	
第 1 回	レポート・アイスブレイク
第 2 回	実技 いろいろなトレーニングを行う
第 3 回	
第 4 回	
第 5 回	
第 6 回	
第 7 回	
第 8 回	レポート・振り返り

ヨーガ

1. 講座名	ヨーガ α
2. 分類	総合選択科目 ウエルネス系列
3. 単位数	2単位
4. スクーリング	総回数：8 必要出席回数：6 スクーリング代替課題：3
5. レポート	総回数：4 必要合格回数：4
6. 目標	[知識・技能] ・実習で肉体を客観視することで客観視力を養い、自己コントロールの力、自制心を身につけることができる。 [思考力・判断力・表現力] ・実習を通して、学んだことを表現することができる。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] ・実習で肉体を客観視することで自身を理解し、他者を理解できる力を養うことで、社会的な健康状態を良好にできる。 ・日頃の運動不足の解消をすることができる。
7. 活動内容	第1回：テーマ「ヨーガの歴史」 ヨーガの歴史と二極の対立感情を学び、人間万事塞翁が馬という諺を引き合いに出して、目の前の今やるべきことに集中することの大切さを学ぶ。 第2回：テーマ「アーサナ（体操）について」 ヨーガの体操を実習することで、前回、学んだ、今、ここだけに集中することの大切さを学ぶ。 第3回：テーマ「ヨーガと健康」 ヨーガとWHOの健康の概念（単位肉体に病気がない状態をいうのではなく、肉体的にも、精神的にも、社会的にも健やかな状態を健康という）と同じであることを学び、そのために自分を客観視する体操を行う。 第4回：テーマ「幸せとは」 ヨーガで考える幸福感を伝えて、物事に一生懸命に取り組むことの大切さを学ぶ。
8. 評価方法	5段階評価 観点別評価 ①知識・技能 レポート・スクーリング及びテスト ②思考・判断・表現 レポート・スクーリング及びテスト ③主体的に学習に取り組む態度 レポート・スクーリング及びテスト
9. 教材	自由教材

スクーリング計画

第 1 回 ①②	テーマ「ヨーガの歴史」 前半 20 分でプロジェクターを使用して、ヨーガの歴史を学ぶ 後半は、呼吸に合わせてアイソメトリック負荷をかける体操で、緊張と弛緩を意識化し、目の前の、やるべきことに集中する力を養う
第 2 回 ③④	テーマ「アーサナ（体操）について」 前半 20 分でプロジェクターを使用して、聖典ヨーガ・スートラに記載されている体操の意味を学ぶ 後半は、呼吸に合わせてアイソメトリック負荷をかける体操で、今、ここだけに集中する力を養う
第 3 回 ⑤⑥	テーマ「ヨーガと健康」 前半 20 分でプロジェクターを使用して、健康についてのインドの逸話を学ぶ 後半は、呼吸に合わせてアイソメトリック負荷をかける体操で、緊張と弛緩を意識化することで客観視力を養う
第 4 回 ⑦⑧	第4回：テーマ「幸せとは」 前半 20 分でプロジェクターを使用して、メーテルリンクの「青い鳥」を伝えながら、幸せは心の状態によることを学ぶ 後半は、呼吸に合わせてアイソメトリック負荷をかける体操で、緊張と弛緩を意識化することで集中力を養う

エコロジー概論

1. 講座名	エコロジー概論
2. 分類	総合選択科目 エコロジー系列
3. 単位数	2単位
4. スクーリング	総回数：8 必要出席回数：6 スクーリング代替課題：4
5. レポート	総回数：4 必要合格回数：4
6. 目標	[知識・技能] ・環境問題について、起きている問題、原因について、身近な問題から世界的な問題までを考えることができる。 ・環境問題の対策に正しい答えがないことについて、認識できる。 [思考力・判断力・表現力] ・社会にある課題に対して、誰かの答えではなく、自分の答えを考え、表現できる。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] ・公害における様々なアクターの気持ちを考える等、自分とは違う立場の人の気持ちや状況を考えることができる。
7. 活動内容	・環境と人々の暮らしや人権、健康を写真やワーク、映像などを使って、学ぶ。 ・特に、「食」「水」「戦争」などに焦点を当てて学ぶ。 ・一人だと考えが膨らませることがなくなってしまうので、ロールプレイやペアワークなどを取り入れて、楽しみながら、知識や考えを広げていく。
8. 評価方法	5段階評定 観点別評価 ①知識・技能 レポート、テスト、授業中のプリントの記入内容、発言など ②思考・判断・表現 レポート、テスト、授業中のプリントの記入内容、発言など ③主体的に学習に取り組む態度 授業中の授業に臨む姿勢や授業で使うプリントの記入を評価の対象とします。
9. 教材	教科書など 地域からつくるあしたの地球環境

スクーリング計画	
第 1 回	レポート① 環境と食べ物 教科書p28 食卓の食品・その安全性
第 2 回	レポート② 環境と水 教科書 p42,44 有害物質・水の危機
第 3 回	レポート③ 環境と地球 教科書 p8,12,14,16,45 地球温暖化、大気、オゾン層など
第 4 回	レポート③ 戦争と環境破壊 教科書 p40 環境を学ぶ意義と社会問題との関係性

五感で自然を感じよう

1. 講座名	五感で自然を感じよう α
2. 分類	総合選択科目 エコロジー系列
3. 単位数	2単位
4. スクーリング	総回数: 8 (実習 4 含む) 必要出席回数: 8 スクーリング代替課題: 4
5. レポート	総回数: 4 必要合格回数: 4
6. 目標	[知識・技能] ・五感とは何かについて言うことができる。 ・五感の活用の仕方について知ることができる。 [思考力・判断力・表現力] ・感じたことを表現することができる。 ・自然とは何かについて自分なりの意見を言うことができる。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] ・自然と人間のつながりについて、考えることができる。 ・自然をとらえる力を得ることができる。
7. 活動内容	五感を研ぎ澄ますため、目隠しや虫眼鏡を活用し、最初は自然から取り出してきて物を教室で感じることから始め、公園、実習地へと学ぶフィールドを変えながら、自然とは何かを考える。レポートの中でも、五感を使うワークを入れることで、日常でも五感を使うことに敏感になり、五感を使うことでの自分の変化を感じ、自然とは何かという大きな問いに向かうことへの習慣をつけていく。
8. 評価方法	5段階評定 観点別評価 ①知識・技能 レポート、テスト、授業中のワークへの参加、発言など ②思考・判断・表現 レポート、テスト、授業中のワークへの参加、発言など ③主体的に学習に取り組む態度 授業中のワークへの参加をもとに評価する
9. 教材	センス・オブ・ワンダー

スクーリング回数	授業内容	レポート
1・2	五感を呼び覚ます(教室)	レポート①
3・4	五感を総合的に使う(課外実習 学校近く)	レポート②
実習 5-8	五感で自然を感じ、自然とは何かを考える	レポート③④

森林体験

1. 講座名	森林体験 α
2. 分類	総合選択科目 エコロジー系列
3. 単位数	2単位
4. スクーリング	総回数: 8 (実習 4 含む) 必要出席回数: 8 スクーリング代替課題: 4
5. レポート	総回数: 4 必要合格回数: 4
6. 目標	[知識・技能] ・森林から受けている恩恵について知ることができる。 ・世界の森林と日本の森林の違いと守り方の違いについて知ることができる。 ・日本の森林の近代史について知ることができる。 [思考力・判断力・表現力] ・自分の暮らしと森林のつながりについて考えることができる。 ・森林からの恩恵と歴史的背景から、現在の森林の問題をとらえることができる。 ・森林保全について、自分がどのようなことができるのか考えることができる。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] ・森林という自然を身近に感じ、現在の状況やこれからの自分の行動について考え、選択することができる。
7. 活動内容	インタラクティブな授業を通して、多くの生き物たちが、森林を生活の場として互いに密接な関係を保って暮らしていること、また、人間がどのように森林から恩恵を受けているのかを学ぶ。授業では、森林の現状を世界と国内に分けて学び、特に国内については、第二次世界大戦後の森林の状況について、歴史的背景もひも解きながら学ぶ。授業にゲストスピーカーとして、森林に関わる仕事をしている人（林野庁の職員など）に来ていただき、将来の選択肢の一つとして森林保全に関わる仕事のお話を聞く機会も設ける。 実習では、間伐や芝刈り、薪割などを通して、森の役割や森林保護について体験的に学ぶ。切った木をエネルギーとして使う体験をし、森が私たちに与えてくれるもの、森の守り方について考える。
8. 評価方法	5段階評定 観点別評価 ①知識・技能 レポート、テスト、授業中のプリントの記入内容、発言など ②思考・判断・表現 レポート、テスト、授業中のプリントの記入内容、発言など ③主体的に学習に取り組む態度 授業中の授業に臨む姿勢や授業で使うプリントの記入を評価の対象とする
9. 教材	自主教材（授業での配布プリント）

スクーリング回数	授業内容	レポート
1・2	森林の現状、森林からの恩恵	レポート①
3・4	日本の森林の歴史	レポート②
実習5-8	森林の仕事	レポート③
実習5-8	森林の課題を考えよう	レポート④

地球にやさしい暮らし方

1. 講座名	地球にやさしい暮らし方
2. 分類	総合選択科目 エコロジー系列
3. 単位数	2単位
4. スクーリング	総回数：8(実習4含む) 必要出席回数：6 スクーリング代替課題：4
5. レポート	総回数：4 必要合格回数：4
6. 目標	[知識・技能] ・物の生産地、廃棄後などの国内外の問題について、知ることができる。 ・認証マークなどについて、調べることができる。 [思考力・判断力・表現力] ・自分の暮らしと世界のつながり(環境問題・貧困)について考えることができる。 ・自分の暮らしの中でどのようなことができるのか考えることができる。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] ・問題にぶつかったとき、どう解決するように動くか考えることができる。 ・自分にとってどのような暮らしが地球にやさしいか考えることができる。
7. 活動内容	・誰もが暮らしの中で必要な物(食べ物)に焦点を当て、その生産地、買い物時、使用時、捨てる時、捨てた後を、写真から情報を読み解くフォトランゲージ、生徒同士で物の持ち方や物の買い方の違いに気づくペアワーク、ごみの分別を実際に行ってみるワークなどを通して、それぞれの問題と自分たちとのつながりを考える。
8. 評価方法	5段階評定 観点別評価 筆記式テスト ①知識・技能 レポート、テスト、授業中のプリントの記入内容、発言など ②思考・判断・表現 レポート、テスト、授業中のプリントの記入内容、発言など ③主体的に学習に取り組む態度 授業中の授業に臨む姿勢や授業で使うプリントの記入を評価の対象とする
9. 教材	自主教材(授業での配布プリント)

スクーリング回数	授業内容	レポート
1・2	生産地を想像しよう	レポート①
3・4	物の持ち方や買い物について考えよう	レポート②
5・6	物を捨てる時、ごみについて考えよう	レポート③
7・8	物を捨てた後がどうなるか知ろう	レポート④

農業体験

1. 講座名	農業体験 α
2. 分類	総合選択科目 エコロジー系列
3. 単位数	2単位
4. スクーリング	総回数: 8(実習 4 含む) 必要出席回数: 8 スクーリング代替課題: 4
5. レポート	総回数: 4 必要合格回数: 4
6. 目標	[知識・技能] ・農業から受けている恩恵について知ることができる。 ・農業のポイントや種類について知ることができる。 ・農業の近代史について知ることができる。 [思考力・判断力・表現力] ・自分の暮らしと農業のつながりについて考えることができる。 ・農業からの恩恵と歴史的背景から、現在の農業の問題をとらえることができる。 ・農業について、自分がどのように関わっていけるのか考えることができる。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] ・農業を身近に感じ、自分の食事やこれからの自分の行動について選択できる。
7. 活動内容	カードを使ったゲームや自分の体験と農業をつなげるグループワークを通して、農業と自分の暮らしの関連性について実感を持って学ぶ。実習では、農薬や化学肥料、プラスチックを使わない農法をしている農地を訪ね、土と生き物と食べ物のつながりについて、作業を通して学ぶ。
8. 評価方法	5段階評価 観点別評価 ①知識・技能 レポート、テスト、授業中のプリントの記入内容、発言など ②思考・判断・表現 レポート、テスト、授業中のプリントの記入内容、発言など ③主体的に学習に取り組む態度 授業中の授業に臨む姿勢や授業で使うプリントの記入を評価の対象とします。
9. 教材	自主教材(授業での配布プリント)

スクーリング回数	授業内容	レポート
1・2	農業の恩恵と自分とのつながり	レポート①
3・4	農法の種類と農業の歴史	レポート②
実習5-8	農業体験がもたらすもの	レポート③
実習5-8	農業の課題とこれからの農業	レポート④

文章作成

1. 講座名	文書作成 α
2. 分類	総合選択科目 情報処理系列
3. 単位数	2単位
4. スクーリング	総回数:8 必要出席回数:6 スクーリング代替課題:3
5. レポート	総回数:5 必要合格回数:5
6. 目標	[知識・技能] ・文書作成ソフトの Word を用いた文章（表や図形などを含む）の作成方法を習得することができる。 [思考力・判断力・表現力] ・文書作成ソフトの Word を扱うための知識や技術を用いて、情報デザインの観点から文章やデザインを表現する力を身につける。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] ・文書作成ソフトの Word の活用例を知り、Wordの知識や技術を活用して、主体的に課題を解決する力を身につける。
7. 学習内容	・Word の基礎（文字入力・文書表現）を学ぶ。 IME パッドなどのツールを用いた、文字の入力方法について学ぶ。 ・フォントやサイズ変更などを用いた、文書作成の技術を学ぶ。 ・ワードアートや画像挿入を用いた、文書表現の技術を学ぶ。 ・習得した技能を活用した Word 文書の作成を用いて、ビジネス文書やチラシの作成を行う。
8. 評価方法	5段階評価 観点別評価 ①知識・技能 ・スクーリングで学習した知識や技術を、レポート課題や実技式テストで活用し、それらを適切に習得できているかを評価する。 ②思考・判断・表現 ・学習内容から学んだ知識や技術を適切に判断して表現できているかを、レポートおよび提出課題や成果物と実技式テストによって評価する。 ③主体的に学習に取り組む態度 ・授業の中での課題作成において、自ら評価し改善しようとしている姿勢を、成果物やレポートの振り返りやスクーリング出席回数で評価する。
9. 教材	実教出版 30時間でマスター Word2021

スクーリング計画			
スクーリング		レポート	
回	授 業 内 容	回	課 題 内 容
①	日本語入力システムと書式設定	①	テキストP.29-55
②	文章の入力と書式設定	②	テキストP.67-82
③	ビジネス文書(編集機能)	③	テキストP.47-96
④	イラスト入り文書の作成(クリップ・ワードアート)	④	テキストP.95-111
⑤	案内状の作成(図形描画機能)	⑤	テキストP.117-121
⑥	新聞作成(段組み・ドロップキャップ)		
⑦	復習と演習(1)		
⑧	単位認定テスト(※実技式テスト)		

表計算

1. 講座名	表計算 α
2. 分類	総合選択科目 情報処理系列
3. 単位数	2単位
4. スクーリング	総回数:8 必要出席回数:6 スクーリング代替課題:3
5. レポート	総回数:5 必要合格回数:5
6. 目標	[知識・技能] ・表計算ソフトの Excel を用いた計算処理（表計算・関数）の基礎知識、資料作成に必要な基本機能や操作方法を習得できる。 [思考力・判断力・表現力] ・表計算ソフトの Excel を用いて、データを正しく読み取りグラフなどの資料に表現する力を身につける。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] ・表計算ソフトの Excel の活用例を知り、Excel の知識や技術を活用して、様々な観点からデータを読み解き主体的に課題を解決する力を身につける。
7. 学習内容	・Excel の基本操作（簡単なデータ入力、ファイルの保存） ・表の計算 （文字や数値の入力、訂正方法、列幅変更、罫線、センタリング） ・計算式の入力 （計算式の入力とコピー・貼り付け、相対座標と絶対座標、セルの表示形式） ・グラフ作成の基礎 （円グラフの作成と編集） ・関数の基礎 （平均の関数）
8. 評価方法	5段階評定 観点別評価 ①知識・技能 スクーリングで学習した知識や技術を、レポート課題や実技式テストで活用し、それらを適切に習得できているかを評価する。 ②思考・判断・表現 ・学習内容から学んだ知識や技術を適切に判断して表現できているかを、レポートおよび提出課題や成果物と実技式テストによって評価する。 ③主体的に学習に取り組む態度 ・授業の中での課題作成において、自ら評価し改善しようとしている姿勢を、成果物やレポートの振り返りやスクーリング出席回数で評価する。
9. 教材	実教出版 30時間でマスター Excel2021

スクーリング内容			
スクーリング		レポート	
回	学 習 内 容	回	課題内容
①	Excel の基本操作	①	テキスト P.8-10 , P.21-26
②	合計の計算	②	テキスト P.9 , P.48-62
③	表の作成	③	テキスト P.60 , P.76 , P.74-78
④	グラフ	④	テキスト P.146-158 , P.171
⑤	絶対参照	⑤	テキスト P.94-96 , P.186
⑥	関数(最小・最大・平均)		
⑦	条件の判定・列の検索		
⑧	単位認定テスト(※実技式テスト)		

ホームページ作成

1. 講座名	ホームページ作成 α
2. 分類	総合選択科目 情報処理系列
3. 単位数	2単位
4. スクーリング	総回数:8 必要出席回数:6 スクーリング代替課題:3
5. レポート	総回数:5 必要合格回数:5
6. 目標	[知識・技能] ・ホームページの作成時に使用する HTML 言語の基礎を学び、ホームページの仕組みを理解する。 [思考力・判断力・表現力] ・ページの構成を学び、web デザインの基礎を習得し、適切な表現方法を習得する。 [主体性・学びに向かう力、人間性等] ・ホームページを作成するための知識、技術を学び、主体的に情報技術を活用する力を身につける。
7. 学習内容	・ガイダンス、HTML 言語の基礎。 ・タグの基本。 ・文章画面のデザイン。 ・文字の装飾。 ・画像の利用。 ・リンクの設定。 ・表(テーブル)の作成。 ・応用として、スタイルシートの作成。
8. 評価方法	5段階評定 観点別評価 ①知識・技能 ・学習内容から学んだ知識や技術を適切に判断して表現できているかをレポートおよび提出課題や成果物とテストによって評価する。 ②思考・判断・表現 ・レポートの課題作成に取り組み、習得した知識や技術を適切に活用し表現することができているかを評価する。 ③主体的に学習に取り組む態度 ・授業の中での課題作成において、自ら評価し改善しようとしている姿勢を、成果物やレポートの振り返りやスクーリング出席回数で評価する。
9. 教材	実教出版 30 時間でマスター Web デザイン

スクーリング計画			
スクーリング		レポート	
回	学 習 内 容	回	課題内容
①	HTML の基礎	①	テキスト P.4～13
②	ページの作成の基礎	②	テキスト P.4～20
③	文字の装飾・段落レイアウト	③	テキスト P.4～30
④	画像の挿入	④	テキスト P.4～48
⑤	リンクの設定	⑤	テキスト P.4～81
⑥	表の利用(1)		
⑦	表の利用(2)		
⑧	フレームの利用		